

あつま 生涯学習だより—特別号—

発行 厚真町教育委員会 電話27-2495

生涯学習だより特別号って??

生涯学習だよりは、平成6年の4月から「教育委員会だより」から名称を変えて、毎月第4金曜日に発行している広報紙です。これまで、教育委員会の取組や町内の学校の教育活動のほか、文化団体、スポーツ団体の紹介等を掲載してきました。

今回の特別号は、新たな取組であり、年に1回、一つのテーマを取り上げた特集記事をカラー版で皆さんにお届けするものです。記念すべき特別号第1回目は、「厚真町の成人式・二十歳のつどい」を取り上げ、これまでの厚真町の歴史とともに紹介していこうと思います。



厚真町 成人式 二十歳のつどいを振り返る

そもそも成人式の始まりとは...

もともと、20歳を迎える年を祝う成人式は、終戦の翌年である1946年(昭和21年)11月22日から3日間、埼玉県蕨(わらび)市で開催された青年祭が起源だと言われています。

当時、戦争に敗北した若者たちを勇気づけようと、蕨町青年団が中心となって開催し、町長や来賓からの激励を受け、芸能大会や物々交換、当時の若者に人気のあったおしるこがふるまわれるなど、今の成人式の原点となっています。

このような取組が評価され、1948年(昭和23年)に、1月15日が国民の祝日「成人の日」として制定され、「大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い、励ます」ことを趣旨として、成人式が行われていましたが、その後、2000年の祝日改正法(通称ハッピーマンデー法)によって、多くの自治体では、1月の第2月曜日に成人式が行われるようになりました。



昭和54年の厚真町市街地の様子



【あつまくん豆知識】

最近では、20歳の半分である10歳の門出を祝う「二分の一成人式」や30歳への激励を込めた「三十路成人式」、80歳を祝う「熟年成人式」など、いろいろな形で行われるようになったみたいだよ!びっくり!

140年ぶりの民法改正! 成年年齢が18歳へ

成人式から 二十歳のつどいへ

明治時代から約140年間、日本での成年年齢は20歳と定められてきましたが、令和4年(2022年)4月1日から、民法が改正され、成年年齢が18歳に引き下げられました。これを受けて、厚真町では、これまでのように20歳を対象にし、「成人式」から「二十歳のつどい」へと名称を変えて実施することとし、令和5年1月8日(日)、記念すべき第1回厚真町二十歳のつどいが開催されました。



第1回二十歳のつどい実行委員の4人

昭和から平成そして令和へ



【あつまくん豆知識】

民法が定める成年年齢は、「一人で契約をすることができる年齢」「父母の親権に服さなくなる年齢」という意味があって、自分の意志で様々な契約ができるようになることを意味しています。

(例)携帯電話の契約、一人暮らしの部屋を借りることができる、10年有効のパスポートを取得できる、結婚(男女ともに18歳へ) など



令和3年度に行われた最後の成人式での餅まきの様子

令和3年度に行われた厚真町における最後の成人式では、成人者が実行委員として、式典の企画段階から関わり、家族や地域の方々への感謝の気持ちを伝えるためのアトラクションとして餅まきを実施。令和4年度の実行委員では、自分たちが生まれた2002年から2023年までを振り返る動画を放映するなど、当事者として、節目を祝うだけでなく、自分たちの手で作り上げる式典へと姿を変えてきています。

昨年度、答辞を担当した渡邊咲羅さん(上厚真)にインタビュー

厚真町の「成人式」には、家族や地域の方々も参加できるのがすごく珍しいので、両親もすごく楽しみにしていました。友達や、当時の先生との再会や、両親への感謝を伝える機会となり、すごく思い出に残っています。成年年齢が18歳に引き

下げられ、大きな転換期を迎えましたが、今後も、人生の中での「節目」の1日になるような式典として、大切にしていってほしいと思います。



答辞を読む渡邊さん

来年度も 実行委員 募集します

令和6年1月7日(日)に予定している令和6年度第2回厚真町二十歳のつどいの実行委員を募集する予定です。自分たちの手で二十歳のつどいを創り上げてみませんか?

※詳細は新年度に入ってからお知らせします。

【問い合わせ】

厚真町教育委員会 ☎27-2495



昭和の成人式

—成人式で腕相撲???—

昭和40年に建てられた児童会館で、成人式を行っていました。また、結婚式など様々なお祝い事も行われました。女性は、振袖のレンタルがなかったため、町内呉服店での購入や身内のおさがりを着ていました。当時は、袖が短い中振袖が流行っており、成人式をはじめ結婚式やお祝い事のほか、袖を短くして子どもの入学式に参列するなど、大事に着ていたようです。また、当時は、成人者が多く、男女別に集合写真を撮っていました。

昭和50年の成人式から厚真町総合福祉センターで行っています。昭和50年の成人式で、成人宣誓をした桐木（旧姓）典子さん（町外）は、当時を振り返り、「成人宣誓は緊張したけど、成人式で久しぶりに同級生に会ってうれしかった」と話してくれました。当時、町内で購入した振袖は、今も大切に保管しているそうです。

昭和58年の成人式に出席した小谷和宏さん（朝日）は、成人式祝賀会の発起人である厚真青年団体協議会の発案で開催された腕相撲について話してくれました。男性たちが腕相撲で戦い、勝った上位4人が会場にいる女性と記念撮影できる特典があり、上位に入った小谷さんは、当時お付き合いをされていた現在の奥様と写真を撮り、ポラロイドカメラの写真を記念にもらったそうです。その時に優勝したのは、袴姿で参加した渡部孝樹さん（共栄）でしたと教えてくれました。その時の写真がないか同級生や後輩などに聞いてくださいましたが、当時は携帯電話もなく、今のように気軽に写真を撮る時代ではなかったようで、残念ながら見つけることはできませんでした。



昭和44年 児童会館で開催した成人式



昭和50年 福祉センターでの1回目の成人式

平成の成人式

—振袖、袴…特別な服装へと—

平成の成人式では、祝賀会はなくなり、成人者の減少により、記念撮影は、男女合同になりました。また、今では普通になっている保護者の出席も平成が始まりです。

平成元年の成人式に出席した藤原直美さん（京町）の話では、1月7日に昭和天皇が崩御されたため、式典は自粛ムードだったようですが、中学校の恩師を囲み、ドライブイン本郷で行われた同窓会で思い出話に花を咲かせたことが印象に残っているそうです。

平成7年の成人式で、交通安全宣言をした中島巧さん（京町）は、順番に読み上げる場所を別の行まで読んでしまい、その瞬間に蔵重（旧姓）恵與さん（町外）が「間違った」と声を上げたという思い出を話してくれました。

平成18年に成人式に参加した高木大輔さん（町外）は、今でも交流がある同級生4人で、袴を着ようと選びに出かけた思い出を話してくれました。また偶然、広報の写真データに残っていた昭和50年に成人宣誓をした高木敏朗さんの息子さんと判明しましたが、敏郎さんは、昨年、亡くなられており、「親子で、成人式の特集記事になるとは思わなかった」と驚きながらも喜んでいました。

平成の成人式では、振袖はレンタルが増え、男性は袴や髪形で普段とは違うスタイルにする方が増えました。しかし、同級生と成人式を迎える喜びは、時代が変わっても同じだとお話を伺って気づきました。

今回の取材では、改めて町民の皆さんに写真や思い出話を伺うと「覚えてないよ」と言いながらも同級生に連絡を取り、写真を探し、エピソードを聞かせてくれました。改めて、皆様のご協力に感謝いたします。



成人宣誓をする高木さんと桐木（旧姓）さん



平成元年成人式



平成7年 成人式中島さんと蔵重（旧姓）さん



平成18年成人式の高木さんと同級生